



「土木学会選奨土木遺産 平木橋 100年」

加古川北高校の南にレンガ造りのアーチ状の水路橋が移転されて遺されていることをご存知でしょうか。もともとは約2km東の福沢の交差点のすぐ西側の竹林に存在していました。古来、水不足に悩まされてきた印南野台地を畑作から稲作へと転換するため、県の一大プロジェクトとして、現在の神戸市北区から西



区、三木市、稲美町を経て水を引くおうご淡河

川・山田川疎水（たんざん淡山疎水）が造られました。水足地区は、その終着点だったのです。1915（大正4）年の竣工です。折角の水路橋も昭和25年以降利用され



なくなり、地元でも存在すら忘れられてしまう状態でした。しかし、土木学会が遺すべき遺産であることを発表した後、地元の歴史文化遺産としての認識がされ始めました。東播磨南北道路の建設予定地になっていることもあって、保存の気運が盛り上がり、2008年3月移設に着工、2009年3月現在の前ノ池に移設完了となりました。翌年の2010年には、土木学会選奨土木遺産に選ばれ、同年加古川市指定文化財に指定されました。橋長27.1m、幅員1.2m、形式は1連レンガ・石造アーチ橋です。橋の中央上部御影石部分に「HIRAKI AQUEDUCT BUILD SEPT 1915」の文字があります。今年は、ちょうど築100年のメモリアルイヤーとなります。加古川北高校もあと2年で40周年となります。歴史の重みは意義深いものがあります。

現在は、ライトアップされ、建設の経緯など知らなくても雰囲気のある空間として地域に存在感のある歴史文化遺産として地元のスポットになっていることは間違いありません。

ぶらり加古川第14号

平成28年11月